
 学校法人 丸の内学園
名古屋福祉専門学校
【高等課程 福祉科】

令和 5 年度
自己評価報告書

令和 6 年 6 月 1 日

 学校法人 丸の内学園
名古屋福祉専門学校

この「自己評価報告書」は、学校法人丸の内学園 名古屋福祉専門学校【高等課程 福祉科】の令和5年度の自己評価結果について記したものである。

令和6年6月1日

自己評価委員会 委員長
校長 境 幸一

「自己評価報告書」の概要

1. 報告書公開日 / 令和6年6月1日
2. 評価対象期間 / 令和5年4月1日～令和6年3月31日
3. 自己評価委員会

	氏名	所属
委員長	境 幸一	(学)丸の内学園 名古屋福祉専門学校 校長
委員	土屋 左内	(学)丸の内学園 名古屋福祉専門学校 事務局長
委員	鈴木 延弘	(学)丸の内学園 名古屋福祉専門学校 高等課程 教頭
委員	前川 好夫	(学)丸の内学園 名古屋福祉専門学校 専門課程 学科長

※自己評価事務局担当責任者 / 小川 慶 (敬称略・順不同)

4. 公開方法

公開方法	公開範囲	公開場所
書面の閲覧による公開	全部	学校法人丸の内学園 名古屋福祉専門学校 事務局 住所/名古屋市中区丸の内1丁目3番25号
ホームページでの公開	要約	学校法人丸の内学園 ホームページ https://marunouchi-gakuen.ac.jp/information/

1. 学園の教育理念

「人間力の育成」

—社会の中でより良く生きようとする能力の育成—

時代や社会が変わっても常に「人の力」が求められています。

本学園では、専門職に必要な知識や技術の習得はもちろんのこと、自らの秘められている可能性を発見し、磨き上げて、育て上げる、「人間力の育成」に力を注いでいます。

そして専門職としての知識や技術を携え、一人の人間として自立し、社会で活躍できる人材を育成し送り出すことで、社会に貢献していきたいと考えています。

すべての教職員は、「慈愛の精神」をもって学生・生徒と接することとします。

※ 「人間力の育成」とは……

一人の人間として自立できるよう、基礎的な学力・思考力・創造力のみならず、コミュニケーション能力・リーダーシップ・規律意識・自己追求力などを見い出して、総合的に育てていくこと。

※ 「慈愛の精神」とは……

親が我が子をいつくしみ、かわいがるような、深い愛のこもった心のこと。

この基本方針に基づき、次項の通り教育目標を定め、「個別最適」な教育を行うこととします。

2. 高等課程 福祉科の教育目標

【教育目標】

人間性の豊かなふれあいを基盤とした学習活動を実践する中で、思いやりの心、豊かな人間性を育てます。基礎学力の充実を図り、社会福祉の基本的な考え方を養い、生涯にわたって福祉を考えられる熱意ある人材を育成します。

【教育方針】

- ・ 才能と個性の伸長を重要視します。
- ・ 基礎学力の充実を図ります。
- ・ 学ぶことの楽しさ、厳しさを知り、学習への興味、自信を持たせます。
- ・ 教育活動を通じ、健全な心身をつくり、優しい心を育てます。
- ・ ボランティア活動などを通じ、奉仕の精神を持ち、地域社会に貢献する人材を育てます。
- ・ 集団活動を通じ、社会性を育てます。

【学年別教育目標】

<1年生>

- ①福祉について興味・関心を持たせ、福祉への理解を図り、全員がサービス介助士ジュニア取得を目指します。
- ②基礎学力の充実を図ります。
- ③学ぶことの楽しさ、厳しさを知り、学習への意欲を持たせます。
- ④仲間を尊重する気持ちを養います。

<2年生>

- ①1年次の学習を基本として、福祉の基礎内容の習熟を図ります。
- ②下級生に対し、リードできる力を養います。
- ③将来の目標に対し、具体的に考えます。

<3年生>

- ①高等課程の最終段階として、2年間の福祉学習の発展として、知識・技術の習得を行い、全員が介護職員初任者研修の資格取得を目指します。
- ②2年次で考えた将来の目標について、個人の目標達成に向けた活動を行います。
- ③最高学年としての責任と自覚を持ち、常に中心的役割を果たすという認識を持たせます。

3. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

18歳人口の減少と大学進学率向上、高大接続改革、専門職大学・専門職短期大学制度の開始など、教育業界は変革期にあり、特に高等教育無償化は制度の対象となる教育機関について厳格な基準が設定されており、教育業界の二極化が一層進むものと考えられる。

本学園としては、各種法制度への対応はもちろんのこと、課題の発見・解決を繰り返し、学園の特色である「5年間一貫教育」の優位性を引き続き訴求し、社会で活躍できる優秀な人材を育成し送り出し続けることで、この変革期を乗り越えて、より学園の発展を目指していきたい。

なお、今年度における重点的に取り組むことが必要な目標や計画は以下の通りである。

(学園)

- ・ 時代の変化に対応し、小学校・中学校で大きく問題化している不登校生対策に対応できる体制作りを推し進め、生徒が安心して学び、中学校や保護者が安心して子供を送り出せる、信頼される高等課程を目指す。
- ・ 学校運営については新型コロナウイルス感染症対策を継続し、学園内で集団感染が起こらないよう細心の注意を払う。
- ・ キャリアコンサルタントによる生徒・学生へのキャリアコンサルティングを実施して、個々に必要な就職支援活動を行っている。
- ・ スクールカウンセラーによる生徒・学生及び保護者、教職員等のカウンセリングを継続して、個々に必要な支援体制を軌道に乗せ、休・退学者を減らす。
- ・ 事務局で平成8年度以降の卒業生名簿・住所録の整備が完了した。今後は高等課程・専門課程とも同窓会の充実を図り、卒業後も良識ある社会人として地域に貢献できる人材の育成に努める。

(教育)

- ・ 個別学習の実施体制を令和5年4月に整備した。
- ・ フリールームの運営を令和5年4月より本格的に実施し、生徒にとって心地よい居場所を学校内に設ける。
- ・ 資格取得の合格率向上を目指す。

(施設・設備の中長期計画)

- ・ 5階教室のプロジェクター・ホワイトボード設置工事。
- ・ 1階玄関ホールの全面リニューアル。
- ・ 6階建て校舎の西側階段の外壁塗装工事及び西側階段塗装工事。
- ・ 1階職員室汚水マス取替工事及び南側講師控室裏汚水マス取替工事。

(生徒募集)

- ・ 引き続き高等課程の渉外活動を精力的に行うとともに、体験入学や学校説明会などで、本校の特色や教育内容をいかに広報していくかを再検討し、定員確保を目指す。
- ・ パンフレット等の印刷物及びホームページにおける高等課程・専門課程のデザインイメージを統一。本学園の特色である5年間一貫教育の訴求をより強化する。

(教職員)

- ・ 教職員に対し、ビジネスマナー教育を行う。
- ・ 働き方改革関連法案の施行に伴う、教職員の年5日以上の有給休暇取得を確実に履行する。
- ・ 定時終了後の居残りをなくすために、役職者が率先して定時で退勤していく。
- ・ 時期や仕事の量により物理的・時間的に居残りが必要になる場合もあるので、メリハリのある勤務を計画的に行うよう教職員に呼びかけていく。
- ・ 場当たりの仕事の仕事ではなく、計画的に先を見通して仕事を先取りして仕事を行うことにより残業しなくていように教職員に呼びかけていく。

4. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

	評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
1	理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
2	学校における職業教育の特色は何か	④ 3 2 1
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 ③ 2 1
4	理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に 周知されているか	4 ③ 2 1
5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界の ニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1

① 現状

1. 生徒手帳および学校説明会資料等に記載している。
2. 福祉関係の教育を通し、福祉関係資格取得、2・3年次には施設実習を実施している。
3. 社会経済のニーズ等を踏まえ、理事会及び評議員会において将来構想の評議が行われている。
4. 生徒手帳に記されている。また学外オリエンテーションや全校集会などで生徒への講話のほか、ホームページへの掲載、学校説明会においても保護者に対し本校の教育理念・目標の周知を図っている。
5. 介護施設実習の打合せや介護施設の採用担当者との面談機会等を活用し、介護現場から多くの生の声や課題・ニーズを聞き出し、教職員間で情報の共有を行うとともに、教育目標等の見直しの材料としている。

② 課題と今後の改善方策

- ・ 時代や社会の変化を常に意識して、新しい取り組みを検討していかなければならない。

(2) 学校運営

	評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
2	事業計画に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
3	運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④ 3 2 1
4	人事、給与に関する制度は整備されているか	④ 3 2 1
5	教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	④ 3 2 1
6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4 ③ 2 1
7	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4 ③ 2 1
8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 ③ 2 1

① 現状

1. 教育理念・教育目標・教育方針・授業内容等は明文化されており、合同職員会議等で教職員に周知し、目的に沿った学校運営を行っている。
2. 理事会で事業計画を承認したのち、合同職員会議等で職員に周知し、事業計画に沿った学校運営を行っている。
3. 「校務分掌表」に則り、適切に運営されている。
4. 「給与規定」「就業規則」等が整備されている。また年2回の人事考課を行っている。
5. 「校務分掌表」が整備されている。
6. 生徒・教職員とも、法令遵守はもちろんこと社会規範の遵守についても適時訓示ならびに指導を行っている。
7. 「自己評価・学校関係者評価」を実施している。また校内掲示やホームページ・渉外資料等で日ごろの教育活動を紹介している。
8. 共有ファイルサーバにより書類の管理を行っている。

② 課題と今後の改善方策

- ・ 共有ファイルサーバのより効率的な運用方法の検討や、教職員間での新たな情報共有方法を検討し、業務のより一層の効率化を図りたい。

(3) 教育活動

	評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④ 3 2 1
5	関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 3 ② 1
6	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	4 3 ② 1
8	職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 3 ② 1
9	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
10	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
11	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4 ③ 2 1
13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	④ 3 2 1
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 ③ 2 1

① 現状

1. 原案作成後、関係各教員が検討し作成する。
2. 教育目標実現のため、各授業内容の時間数は確保している。
3. 3年間の目標・各学年の目標が繋が体系的になるカリキュラムを作成している。
4. 資格取得の充実を図っている。
5. 意見を参考にしている。
6. 2・3年次に施設実習を実施している。
7. 来年度から授業評価するために生徒用アンケートを作成した。
8. 参考程度に取り入れている。
9. 教務内規により規定している。

10. 各学年での取得資格を定めて指導している。
11. 教員免許所持者・福祉現場経験者等、要件を備えた教員を採用している。
12. 福祉施設と相談を行っている。
13. 技能連携校である向陽台高等学校が実施する生徒部研修会・進路部研修会・研究授業研修会等に教員が参加している。また、外部講師を招いて現職教育を年2回行っている。
14. 校内での教員研修会のほか、教職員からの申し出により、外部の各種研修会への参加を推奨しており、学園が費用を負担する制度もある。

② 課題と今後の改善方策

- ・ 教員の資質向上の機会を増やし、質の向上を高めていかなければならない。そのために、外部研修参加の機会を増やしていく必要がある。
- ・ 時代や社会の変化で求められる知識や技術の変化に対応するために、教育内容の見直しや取得資格の見直しを図っていかなければならない。

(4) 生徒指導等

	評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
1	基本的生活習慣の確立のためにどのような取組が行われているか	④	3	2	1
2	生徒の安全管理(災害共済保険、スクールカウンセラー、発達障がいのある生徒等への支援など)が行われているか	④	3	2	1
3	生徒・保護者からの相談体制が組まれているか	④	3	2	1
4	進学・就職指導にかかる支援体制は組まれているか	④	3	2	1

① 現状

1. 家庭との連携を図る。学内において身だしなみや言葉遣い、時間を守ることなど、社会に出たら求められることを、学生生活を通じて指導する。
2. 独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済給付制度に加入している。
養護教諭を配置している。臨床心理士(スクールカウンセラー)による教育相談(スクールカウンセリング)を実施し、生徒・保護者の相談に対応している。
3. 担任だけでなく、養護教諭や臨床心理士(スクールカウンセラー)・学校長・教頭とも相談ができる体制を整えている。
4. 入学時より、卒業後の進路を意識させ、担任を中心として相談・指導をしている。
2年次には、向陽台高等学校から進路担当者を迎え「進路(就職・進学)への目覚め」と題して特別授業を行い、3年次には、本校就職担当者による進路説明会を行っている。
令和4年度より本校常勤のキャリアコンサルタントが各学年で特別授業を行い、「キャリアコンサルティングの案内」(申込書含む)を配布し、面談希望者に対し相談・援助を行っている。

② 課題と今後の改善方策

- ・ 家庭・保護者との連携が十分できない場合があるので、連携体制の見直しを図るケースがある。
- ・ 時代や社会の変化と共に、必要な相談支援体制が変化しているため、新しい相談支援体制を構築する必要がある。
- ・ キャリアコンサルティングでは、特別授業の内容を学年別により適した内容に改善し、面談希望者の増加につなげる必要がある

(5) 特別活動等

	評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
1	クラブ活動等特別活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1
2	保護者会等との活動を推進しているか	④	3	2	1

① 現状

1. 各部活とも今まで以上に入部促進活動を行った。また各部で必要備品の購入を進めたほか、新たに部活動助成金を各部へ支給した。
2. 「PTA 懇談会」では保護者と教員の意見交流の場となり、有意義な話し合いがされた。6月には「PTA 講演会」(大人の性教育)を行い参加者から好評であった。2月には「PTA 講演会」(在宅介護(車椅子の使い方))を行い、PTA 会員相互の交流と情報交換の場となった。学園祭で「PTA カフェ」と「PTA 活動報告」(写真と文による活動紹介)を行った。

② 課題と今後の改善方策

- ・ 部活動はやりたい生徒が自主的に参加しているので、積極的な宣伝・勧誘が大切である。
- ・ 今年度も入学後すぐに、1年生対象に学年集会で「部活紹介」を行った。その結果、多くの1年生が部活見学を行い、その後の入部へとつながった。
- ・ その他、部員の口コミや担任など教員が部活動へ勧誘することにより、継続的に部員を増やしていく。
- ・ 生徒の金銭的負担を減らすために、学校から各部に助成金を支給して入部しやすい環境を整えた。
- ・ その他、部活動で生じる交通費はPTA会費から支払っている。

(6) 学修成果

	評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
1	就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
2	資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
3	退学率の低減が図られているか	④	3	2	1
4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	②	1
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	②	1

① 現状

1. 進路に対する意識を高め、面接指導などを行う。
2. 資格取得の意義を理解させ、意識を高める。
3. 退学者を出さないことを目標に、楽しい学校生活ができるように各教員が雰囲気づくりに努め、退学者の減少に結び付いた。また、臨床心理士(スクールカウンセラー(以下 SC))と各担任との連携により、生徒・保護者との面談が行われ退学者・休学者の減少に大いに貢献した。毎月行われる「いじめ不登校対策委員会」において、休みがちな生徒について関係者が意見交換し、問題が深刻化する前に適切な対策が取られるようになった。
4. 学校側から卒業生本人や企業等に問い合わせをすることはないが、情報として伝わってくるものは把握する。
5. 参考にすべきものは活用する。

② 課題と今後の改善方策

- ・ 退学者を出さないための学校運営・学級運営が求められる。
- ・ 学校が楽しい、授業が分かって楽しい、友達と話すのが楽しい、部活動が楽しいと思えるような学校・学級を作っていく必要がある。
- ・ 生徒に対する暖かみのある対応を基本としながら、規律ある学校生活を送れるようにメリハリのある指導をしていく。
- ・ 生徒一人ひとりに目を配り、友人関係等で悩み始めたり、トラブルに発展しそうになったら、早めに生徒と面談し解決方法を共に考えたり、相手のある場合は本人と相手の間を取り持つて問題を解決していく。
- ・ 問題解決には適切な時期があるので、その時期を見逃すことなくスピード感を持って取り組んでいく。具体的には、生徒面談、保護者への電話連絡、保護者・生徒との面談、手紙送付、家庭訪問などを適切な時期に行っていく。
- ・ 今まで以上に SC と各担任が連携し適切な時期に生徒・保護者との面談を行い、「いじめ不登校対策委員会」における関係者の意見交換が有効な対策につながるようにしていく必要がある。

(7) 生徒支援

	評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
1	生徒の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
2	生徒の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1
3	課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
4	生徒の生活環境への支援は行われているか	④	3	2	1
5	保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
6	卒業生への支援体制はあるか	4	3	②	1
7	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
8	専門学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の 取組が行われているか	④	3	2	1

① 現状

1. 保護者の所得に応じた各種奨学金・給付金・授業料軽減補助金制度の手続き案内を行っている。学校独自の特待生制度や家族入学特典制度、また技能連携校である向陽台高等学校の特待生制度もある。
2. 保健指導部による保健指導・健康管理が行われている。
3. 学校やPTAから補助がある。
4. 生活指導部が中心となり、校内・校外指導や教育相談などの支援を行っている。
5. 担任を中心に保護者と連絡を取り合い連携している。PTAなど保護者が集まる機会を作り連携している。
6. 卒業生側から相談があれば支援をする。
7. 過年度生の受け入れを行っている。
8. 本校の専門課程 介護福祉学科と密に連携をとり、「5年間一貫教育」という本学園ならではの強みを活かし、福祉のスペシャリストの育成に取り組んでいる。

② 課題と今後の改善方策

- ・ 保護者の理解・支援・連携は学校教育では絶対必要であるため、さらなる充実を図る取り組みを構築する必要がある。
- ・ 卒業生への支援体制について検討を進めていく。
- ・ 卒業生が集まる場として同窓会を開けるか、開いた場合、内容はどうするのかを検討する。
- ・ 同窓会担当者を決め、卒業生名簿の整備を進めた。
- ・ 卒業生名簿を基に行った「卒業生アンケート」の結果を基に同窓会として何ができるか検討していく。

(8) 教育環境

	評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④ 3 2 1
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④ 3 2 1
3	防災に対する体制は整備されているか	4 ③ 2 1

① 現状

1. 生徒数に対応した適切な施設・設備で運営されている。また必要に応じ施設の改修や設備の更新を行っている。
2. 介護実習施設と実習に関する契約を結び、介護施設の現場で生徒が介護実習できるよう体制を整えている。
3. 全校生徒・職員による避難訓練ならびに職員による消防訓練を実施している。消防設備等の点検を実施し、「消防用設備等点検結果報告書」を名古屋市中消防署に提出している。また飲料水等の備蓄品の確保を行っている。災害等による緊急連絡がある場合は、ホームページのトップに周知事項を掲載できる体制を備えている。

② 課題と今後の改善方策

- ・ 防災体制は避難訓練をはじめ、しっかりと行っている。しかし、災害に対して、各生徒の意識がどれほど真剣に考えているかなどは簡単な避難訓練後のアンケートだけで把握できるものではない。「訓練のための訓練」になってしまわないように、生徒一人一人の防災に対する意識を高めていけるように、事あるごとに注意を促していく必要がある。

(9) 生徒の受入れ募集

	評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
1	生徒募集活動は、適正に行われているか	④ 3 2 1
2	生徒募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④ 3 2 1
3	学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1

① 現状

1. 渉外部が中心となり、年間の渉外計画・広報計画を立てて実施している。学校説明会・体験入学の他、随時学校見学も受け入れ、入学に関する相談ができる機会を常に設けている。また広報物は誇大表現・不当表示・優良誤認にならないよう、複数担当者によるチェックを実施している。
2. 学校案内パンフレットやホームページなどに卒業生の進学先・就職先を掲載している。また生徒の感想文と学園ニュースをまとめた「私たちの学校紹介」という冊子を作成し、生徒の感想や学校の様子をありのままに伝える取り組みを行っている。さらに、本校での学校生活の様子を分かりやすく中学生に伝えるために、「学校紹介DVD」を制作し、各中学校へ1枚配布している。体験入学では、実際に行われる福祉に関する授業を、内容を変えて回替わりで実施しており、バラエティに富んだ多くの授業を体験できるよう工夫している。
3. 入学金・授業料等の学納金は、他校と比較して適正である。

② 課題と今後の改善方策

- ・ 体験入学や学校説明会などで、本校の特色や教育内容・成果をいかに広報していくかを再検討し、定員確保を目指す。
- ・ 上級学校訪問を積極的に受け入れる旨、中学校宛に案内を出した。このことにより中学1・2年生に対して本校の存在を知るきっかけとなり、さらにはその生徒が3年生になったときに、本校を進学先の選択肢の1つにしてもらえる可能性を探った。

(10) 財務

	評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	③	2	1
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
3	財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
4	財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

① 現状

1. 中長期的な学校の財務基盤について、最新(令和4年度)の貸借対照表によると、自己資本比率(純資産÷総資産)は92.9%となり、上場会社平均自己資本比率40%と比較しても、学校の財務状況は良好であると考えられ中長期的に見ても財務基盤は安定していると言える。
2. 予算・収支計画については、事務局長により立てられた予算・収支計画を基に、法人本部にて協議した後、理事会・評議員会にて審議し決定されている。予算執行については、年度初めの事業計画を基に適切に執行されている。

3. 私立学校法、寄附行為に基づき、適切に会計監査を行っている。監事による監査報告書を作成し、理事会・評議員会に提出している。
4. 財務情報公開の体制を整備し、申し出による自由閲覧にて適切に公開している。

② 課題と今後の改善方策

- ・ 予算・収支計画において、今後は、より緻密で無理なく実現可能な計画を策定する必要がある。策定した計画を適切に執行し、予算管理の段階で、予算額と実績額との差異を正確に把握・管理する事で、今後も継続して安定した財務基盤を確立していく事が可能であると考える。また、不測の事態による予算外の新たな義務の負担等、予想外の支出が発生した場合には、所定の手続きを経て、予備費の使用や予算の修正・補正を速やかに行い、適切な財務処理を心掛ける。
- ・ 「規制改革実施計画」における押印・書面・対面を求める行政手続の見直しの趣旨を踏まえた、理事会等運営及び議事録の取扱いの明確化並びに文部科学省における「学校法人寄附行為作成例」の改正にともない、私立学校法の趣旨に沿った適切な取扱いを行うとともに、その具体的な取扱いに応じ、寄附行為の定めを明確化を図るため、寄附行為の変更を行った。今後は、令和7年4月1日から施行される私立学校法の一部を改正する法律に対応するため準備を進める。

(11) 法令等の遵守

	評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
3	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	③	2	1
4	自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

① 現状

1. 学校教育法・専修学校設置基準等の各種関係法令を遵守して学校運営を行っている。また外部の弁護士・会計士らの助言のほか、評議員会により適切な学校運営がなされているかのチェックを実施している。
2. 各種関係法令及び「特定個人情報取扱規程」に則り、適正に取り扱われている。
3. 自己評価委員会による評価の実施のほか、課題と今後の改善方策のとりまとめを行っている。また自己評価結果に対し、学校関係者評価委員会において評価を行っていただき、それらの意見も含めて、問題点の改善に取り組む。
4. 事務局にて閲覧による公開を行っているほか、学園ホームページの「情報公開」ページにて公開している。

② 課題と今後の改善方策

- ・ 個人情報保護に関しては、常に取扱状況を確認し、組織及び教職員に緩みが出ないよう対策する。
- ・ 自己評価・学校関係者評価の質の向上、継続的实施による評価データの蓄積とその時系列データの活用を行ないたい。また自己評価による課題発見から実際に改善に取り組むプロセスの強化を図りたい。

(12) 社会貢献・地域貢献

	評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2	1
2	生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1
3	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	3	②	1

① 現状

1. 上園町花のまちづくりの会に参加し、街路樹マスへの春・秋 2 回の花苗の植え替えの他、日常の水やり、道路清掃活動を職員が行っている。
2. ボランティア部が中心となり、ボランティア活動や募金活動などを行っている。また夏休みなどの長期休暇を利用した介護施設でのボランティア活動を支援している。
3. 学園として、地域にある介護施設の職位のキャリアアップや能力向上を目指して、本校の教員を施設に派遣して介護の基礎的な授業や介護職員に必要な知識が習得できるような講座を行っている。

② 課題と今後の改善方策

- ・ 本校生徒が取り組んでいるボランティア活動の内容を学内外に広く周知して、ボランティアの輪が社会に広がっていくよう取り組みたい。

5. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

自己評価・学校関係者評価の実施にあたり、「専修学校における学校評価ガイドライン」(文部科学省 生涯学習政策局／平成25年3月)の「高等専修学校の評価項目・指標等を検討する際の視点となる例」を参考に評価項目の設定を行った。学校運営を教育・財務・経営・法令遵守・社会貢献など様々な視点から点検および検証し、評価することができた。

委員である各教職員においても、各自の業務担当外の項目について評価を行うケースもあり、改めて学校運営について理解を深める有益な機会となった。

自己評価を行うにあたり、「不適切」と評価した項目については、次年度を待たずに早急に対応・改善を行うべき事案として取り扱うこととしたが、今年度の自己評価においては「不適切」の評価項目はなかった。「適切」と評価した項目についても、今回の自己評価における点検・検証を踏まえ、さらなる改善や発展ができるよう努めていきたい。

この自己評価・学校関係者評価の評価結果を改善方策の検討において活用し、次年度の重点目標の設定や学校運営、教育活動等について具体的に改善を図ることで財務基盤の安定、教育水準の向上に努めたい。また客観性・透明性を高めるため、自己評価・学校関係者評価の結果を一般に公表するとともに、各教職員が取り組むべき課題を共通認識できるよう活用を図りたい。